

令和7年度 AJEEP Scheme 4 CSMのエネルギー診断報告会を実施しました

【事業概要】一般財団法人省エネルギーセンターは、資源エネルギー庁の委託を受けて、令和7年度のASEANに対する省エネ人材育成事業のAJEEP*1 Scheme 4として、CSM*2 Trial Runを実施していますが、その最終活動となるエネルギー診断結果の報告会を、ASEAN10カ国のASEANエネルギー管理プロ志望者25名に対して令和7年12月12日（金）から16日（火）までの3日間に分けて一人ずつ順次実施し評価を行うと共に、CSM Trial Runを完了し全体の評価を行いました。

1. **目的** : AJEEP Scheme 4の大きな課題の一つであるASEANの地域共通となる標準的なエネルギー管理士認定研修科目 (SAEMAS*3 CSM) の確立は、2022年度から4カ年計画で推進しており、この3カ年、ECCJはAMS 10カ国のSAEMAS WG及びACE*4と共に検討してきました。最終年度となる今年度は出来上がったCSMの構成要素である3つの研修を一通りオンラインでTrial Runとして実施し、ASEAN各国のエネルギー管理士研修関係者や政府関係者によりCSM研修テキストや運営法などをECCJが作成したFormatに沿い評価して報告書を提出してもらい、来年1月のWSで確認・討議の上、CSMの最終化を図ると共に、当該制度未整備4カ国を中心にASEAN EMP*5を目指すエネルギー管理士志望者に研修生として参加してもらい認定判定を行う。
2. **参加者** : CSM Trial Run全体として研修生では34名が登録しましたが、最終となるこのエネルギー診断演習の診断報告会には、インドネシアとシンガポールを除く8カ国とACEから計25名が参加しました。また自国報告者の内容確認もあり3名の評価者が参加してくれました。
3. **診断報告会概要と結果** :
 - (1) CSMのTrial Runの第2弾として位置づけられるエネルギー診断演習は今年9月末に診断要領等の講義をオンラインで行い、かつ参加者の診断計画を確認した上で10月より診断を開始しました。エネルギー診断先が見つけにくい場合には希望者に模擬診断の事例をECCJより提供して参加者全員が診断を実施出来るようにしました。
 - (2) 診断は10月から11月末までに実施し報告書を12月上旬までに提出とし、12月12日から16日まで一人15分の報告会を設定しました。
 - (3) 診断開始時には29名が登録していましたが、その後の診断状況により最終的には25名が残り、報告書の提出し報告会に参加してくれました。
 - (4) 研修生は個人だけではなく、実際の診断では職場の診断チームの形態でもエネルギー診断に取り組んだ結果も報告してもらい、診断を積極的に推進する気運が散見されました。
 - (5) 25名のエネルギー診断報告書の評価とプレゼン結果は、省エネ効果の定量的な提示に難がある参加者が多かったものの、構成やエネ管理状態のレーダーチャート表示等、ECCJが提示した様式に沿って作成してくれ概ね良好な内容でした。
 - (6) この診断演習の評価結果と、これまでの2つの実践研修と座学研修の試験成績と併せて全体の評価した結果、診断で残った25名の全員がCSM Trial Runとしても合格となり、ASEAN EMPの受賞対象となりました。
 - (7) CSM Trial Runに対する評価者による評価結果は各国でまとめている最中で12月下旬までに入手し来年1月のオンラインWSでAM Trial Run結果と併せて討議する予定です。

*1 AJEEP : ASEAN-Japan Energy Efficiency Partnership

*2 CSM : Common Standard Module: 共通標準研修科目

*3 SAEMAS : Sustainable ASEAN Energy Management Accreditation Scheme

*4 ACE : ASEAN Centre for Energy

*5 ASEAN EMP (Energy Management Professional) : ASEAN地域に新たに設置するエネルギー管理プロフェッショナル